

## 会 議 録

|                         |                                                                                                                                                                  |
|-------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 会議の名称                   | 第４０回和泉市史編さん委員会                                                                                                                                                   |
| 開催日時                    | 令和８年８月５日（水）１０時３０分 から 正午 まで                                                                                                                                       |
| 開催場所                    | 和泉市役所本館３階 ３Ａ会議室                                                                                                                                                  |
| 出席者                     | <p>〔構成員〕 広川禎秀委員長、栄原永遠男委員、塚田孝委員、仁木宏委員、並木敏昭副市長、大槻亮志教育長</p> <p>〔事務局〕 山村生涯学習部長、森下文化遺産活用課担当次長兼課長、山千代文化遺産活用課長補佐兼係長、村上文化遺産活用課主事、山下文化遺産活用課市史編さん室職員、永堅文化遺産活用課市史編さん室職員</p> |
| 会議の議題                   | <p>検討事項１ 令和７（２０２５）年度の事業報告</p> <p>検討事項２ 令和８（２０２６）年度の事業計画</p> <p>検討事項３ 市史編さん事業完結後の事業について</p>                                                                       |
| 会議の要旨                   | 令和７（２０２５）年度の事業報告、令和８（２０２６）年度の事業計画及び市史編さん事業完結後の事業について意見交換を行った                                                                                                     |
| 会議録の作成方法                | <input type="checkbox"/> 全文記録<br><input checked="" type="checkbox"/> 要点記録                                                                                        |
| 記録内容の確認方法               | <input type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている<br><input checked="" type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている<br><input type="checkbox"/> その他（ ）                                |
| その他の必要事項                |                                                                                                                                                                  |
| 審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等） |                                                                                                                                                                  |

## 1. 事務局からの報告内容に対する意見交換

### 【栄原委員】

- これまでいくつかの自治体で編纂事業に携わってきたが、『和泉市の歴史』最終巻のように、一連の巻を刊行したのち、改めて全体を捉え直す試みは他に例がなく、重要な取組みである。

### 【塚田委員】

- 事務局からの報告には「評価」という言葉があった。かつて勤務した大学においても「評価」という言葉が用いられたが、自分が研究・教育に注いだエネルギーや情熱がそこから垣間見られることはなく、双方のギャップに悩んできた。
- 市史編さん委員会は「研究」の中心であった。『和泉市の歴史』最終巻の目次を、数度にわたる執筆者会議を経てまとめてきたことにも明らかである。そのあたりのことは、新しく発足させるという旨みの国歴史館運営委員会において、どのように受け継がれていくのか。
- 『和泉市の歴史』最終巻は、時間の流れに沿う通史叙述と地域ごとに分析する総合叙述とによって構成される。
- 『和泉市の歴史』の編さんは、進みながら考えることを旨としてきた。
- 地域の編成はその時々「選択」の結果として生じている。『和泉市の歴史』を編さんする事業は、和泉市の成立に至る地域の「選択」を捉え直す試みであったと言える。
- 『和泉市の歴史』編さんが完結した以後においても、歴史の認識は絶えず更新されていくべきものである。

### 【仁木委員】

- 私も他にいくつかの自治体で編纂事業に携わってきたが、自治体ごとに事業の性格は異なり、編纂事業が完結した後には、その成果が活用されない事例もある。
- そうしたなかで、本日事務局から提示された市史編さん事業完結後の見通しについては、事業の成果を継承する方向性が明快であり、感動すら覚える。市民にとって重要な事業となるであろう。
- 大阪公立大学の現役教員として発言すると、和泉市との合同による地域調査は、本学の研究・教育活動にとって大きな魅力であり、市にはあらためて感謝の意を表したい。
- 他方で、大学キャンパスの杉本町から森ノ宮への移転や教員の世代交代もあり、あらゆる意味において、和泉市との関係は変化していかざるを得ないであろう。

### 【広川委員長】

- 発信の前提には、高いレベルの研究の裏付けが必要である。大阪公立大学との関係は、その意味で重要であったが、和泉市も大阪公立大学もともに人的な面を含めた転換点にあることは十分に認識されるべきであろう。

【塚田委員】

- 合同調査について言うと、平成9（1997）年に小田町で行った第1回の調査からほぼ30年を経過した。この間、社会も地域も大きく変化した。それでは、調査を行った地域はいまどのように変化しているのだろうか。
- 資料の所在を追跡確認するように、和泉市では合同調査の蓄積があるため、地域についてもその後の変化を尋ねることができる。このような好条件をどのように活かしていけるのかは、今後の事業にとって重要な点であろう。

【事務局】

- 発信の前提となる基礎的な調査・研究が重要であるという委員の指摘はもっともである。
- 大阪公立大学との関係も従来通りではいかず、変わっていかざるを得ない。
- 発足を検討するいずみの国歴史館運営委員会は事業評価だけでなく、実務にわたる指導・助言も仰ぐものである。市史編さん事業において、専門委員や調査執筆委員を設けているように、いずみの国歴史館運営委員会の下部組織を設置し、各種委員を委嘱するかは今後検討していきたい。

【栄原委員】

- 自治体史編纂事業の後には、収集された史料が図書館等に放り込まれる場合や、死蔵される場合も多い。
- そうしたなかで、和泉市の場合は史料の保存と公開まで見通しがついている。事業の継続については、私も事務局の提案を理想的なものと考えたい。
- 和泉市史において達成された研究レベルの高さや豊富さは、市の理解あつてのことであり、今後も継続的な見直しのもと進めてもらいたい。

【広川委員長】

- 歴史の捉え方を更新していくには、地域住民の求めるものを汲み取ることが重要である。
- これまでの成果をもう一度見直し、どのように読んでもらえるか、発信していくか、を検討していくべきであろう。
- 市史編さん事業のあったことは、和泉市のステータスを示すものといえよう。

【塚田委員】

- 現在の和泉市史編さん事業は、三浦圭一先生の携わった『和泉市史』第1巻・第2巻（1965年・1968年）の恩恵が大きい。

【広川委員長】

- 三浦圭一先生は、地域に根付いた編纂事業を志すようにという赤松俊秀先生の激励を受けて、ほぼ独力で編纂を担われた。その意志には大いに尊重すべきものがあるだろう。

【大槻教育長】

○本年は和泉市の市制施行70周年の節目であり、さらにこれからの100周年に向けて、今後どのようなまちにしていきたいのかを考える必要がある。とくに歴史と文化を市の魅力として活かしていくことは、本市の目指すところの一つである。

○多くの編纂事業では、出来たらそれで終わり、という例もあると聞く。本市においては、今後どのように市史編さん事業の取組みを充実し、継承していくかに関心を向けている。

○地域の史料を追跡確認していくなかで、残していくべきものも見つけられるかも知れない。何を調査するかを十分に検証し、予算措置等の局面においても教育委員会として後押しをしていきたい。

【並木副市長】

○市史編さん事業の発足時には財政部局にあり、当時としては画期的な事業であったことを記憶している。それから30年を経て、個人的には感慨深いものがある。

○これまでの成果をどのように市民へ還元していくか。とりわけ学校教育への活用は重要な点である。

○本事業の取組みを継承するべく、行政として引き続きできる限りの努力を続けていきたい。

3. 閉会

【広川委員長】

○今回の会議では、これまでの取組みを振り返り、今後を展望するうえで有益な意見が交わされた。

○以上をもって、第40回市史編さん委員会を終了する。

〈終了〉